

平成30年度 第3回 豊岡市子ども・子育て会議要約版（議事要点録）

日時	平成31年2月13日（水） 13時30分～15時10分
場所	豊岡市役所本庁舎 7階 第3委員会室
出席者（委員）	横川会長、大木本副会長、小山委員、中村委員、神尾委員、松原委員、大田委員、西村委員、中嶋委員、上崎委員、與田委員、西垣委員、間委員、久保川委員
（事務局）	堂垣次長、宮本課長、福富参事、山根参事、富岡参事、吉谷主幹、谷垣係長、仲義係長、安原係長（(株)関西計画技術研究所 大内、吉田）
欠席者（委員）	谷垣委員、阪根委員、藤井委員、今井委員
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議 事 (1) 協議事項 ア 第2期豊岡市子ども・子育て支援事業計画について 資料1～4 (ア) 市民ニーズアンケート調査結果（中間報告）について (イ) 構成・内容について (ウ) 教育・保育提供区域の設定について イ 小規模保育事業の認可について (2) 報告事項 資料5～7 ア 第1回豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方検討部会の協議内容について イ 幼児教育無償化の制度の具体化に向けた方針の概要について ウ 平成31年度入所申し込み状況（H30.11.30現在）について (ア) 幼稚園・認定こども園（1号認定） (イ) 保育所・認定こども園（2・3号認定） (ウ) 放課後児童クラブ 4 その他 5 閉 会
配布資料	資料1 アンケート調査結果報告書 概要 資料1-1 アンケート調査結果報告書 資料2 計画の構成・内容について 資料3 教育・保育提供区域の設定について 資料4 小規模保育事業の認可について（※当日配布） 資料5 第1回あり方検討部会の協議内容について 資料6 幼児教育無償化の制度の具体化に向けた方針の概要 資料7 平成31年度入所申し込み状況（H30.11.30現在）について

1	開会	開会の宣言（事務局）
2	会長あいさつ	会長あいさつ
3	議事（要点） （1）協議事項	<p>アー（ア）市民ニーズアンケート調査結果（中間報告）について</p> <p>委員 幼稚園を利用している人が長期休暇中の教育・保育事業の利用希望をしているということについて、夏休み中に「ほぼ毎日利用したい」という方は、希望としては少なくとも「認定こども園を希望する」というカテゴリに入ることになるのではないかと。幼稚園の教育と保育園、認定こども園の教育は違うという認識を、保護者や利用者の方からとっていくことが必要であると思われる。</p> <p>事務局 アンケートにおける親の就労状況や、今後どういったところを希望しているのか、今後の就労希望はどうかといったところについては、今後、保育が必要かという算定を別で行っていく。現在の利用の希望と、実際の家庭状況でいくと2号、3号が必要ではないかというようなところは別で算定することになるので、それについては後日提示させていただく。</p> <p>委員 アンケート調査の結果から、具体的にどういう状況が今見えているのか、概要を教えてほしい。</p> <p>事務局 新制度がスタートしたということ。また、第1期の計画をつくった際には認定こども園というのがまだそんなに普及していなかった時代であったかと思うが、今回の結果では認定こども園の利用、希望が増えてきているというところがある。都心部と山間部などでも施設に対する考え方が違うということはあるが、前は保育所が多かったということに対して、現状は認定こども園に対する利用が多く、今後の利用意向も多くなってきているという状況がある。そのため、5年前とくらべた時にこのあたりの考え方が異なってきているというところがある。</p> <p>今は幼稚園のほうで預かり保育に注力をいれて、言えば認定こども園に近いような形でサービスを提供されている幼稚園もある。保護者の方が希望できる施設、働き方の状況にもよるが、そこが選択できるまちづくりというところを今後進める必要があるのではないかと印象をもっている。</p> <p>5年前と現在の利用している施設の構成というところが変わってきているのではないかと。また、働くお母さんが増えてきているから、幼稚園を利用している人でも、長期の休みの時に預ってくれるところの希望が増えたのではないかと考えられる。</p> <p>実際に色んなところで見聞きすることがそのまま数字に出ているという印象がある。これをもとに第2期の計画をつくっていくことになるが、その辺りを上手く反映させていけたらと思う。</p> <p>幼稚園の利用希望は少し実態とことなっている印象がある。希望がある一方で、就労状況等を考えて選ばないという結果になっているのかとは思っている。</p> <p>委員 具体的にお母さん方が、認定こども園や保育園、幼稚園などの情報をどうい</p>

	う形で仕入れているのか、さらに徹底できるような形はつくれないのか。
事務局	今ご意見をいただいたことは十分にこの計画に反映させていただけたらと思う。皆さまからのご意見等を聞かせていただき、修正を加えながらつくっていくということになるので、そのあたりのご意見については検討させていただいたなかで、反映していきたいと考えている。
委員	アンケート結果では「ファミリー・サポート・センター」の利用を望まないという声が多いが、どの程度認知度があって、内容を知っているかの判断なのかどうか分からない。どの程度認知されていて、アンケートに反映されているのか、内容が分からないと判断しかねないので、少し疑問に思った。
委員	もっと情報がほしいということも聞くので、もっと積極的に情報提供をしてほしい。
事務局	この制度は平成29年度の4月からスタートしたところであり、認知度はまだまだ低いですが、市広報にも掲載をしている。健診や妊娠届提出の際に持ち出し、PRに努めているところである。また、子育てセンターにおいても事業がある度にスタッフが出向き、制度の説明や会員の募集などを行っているところである。会員のほうも少しずつ増えており、現在は160人近くになっている。最近は口コミで広めていただく傾向もでてきているので、引き続きPRに努める。
委員	アンケート調査結果報告書の概要では、就学前の間29の育児休業の部分がまとめられていないが、何か理由があるのか。
事務局	量が多いため、概要版ではサービスの部分を中心に掲載している。
委員	7ページの下の方について、「1歳」と答えた人の利用希望のところ全体(n値)は「262」となっているが、実際は「150」ではないのか。 17ページの間23について、No1のn値が「52」、合計日数が「677」となっており、平均日数はこれを割るのかと思うとそうではないが、どういう作りになっているのか。
事務局	7ページについては、今のお子さんが「1歳になった時」、「2歳になった時」、あるいは「3歳になった時」という聞き方をしているため、累積していくような形で母数が増えていくことになる。17ページについては、不明・無回答の方を除いているということと、実際に一時預かりなどを回答しても日数などを書かない方もいるため、このような数字になっている。
委員	今後どのような分析をされるのか、説明してほしい。
事務局	区域で分析をしたほうが良いのではないかとと思うが、回答の半数以上が豊岡圏の方になっているので、他の圏域の方の回答については母集団が少ないことになり、出た結果とその地区の本来の結果に誤差が生じてしまう可能性もあると考えられる。そのため、実際にその数字が確かなものかという事については、事務局や委員の皆様の意見を聞いて分析を深めていく必要があると思っている。また、それぞれの項目によって学年別でみたほうが良いところなどは随時分析をやっていきたいと考えている。
委員	間8-1「実際に子育てについて相談できる方」の項目について、「祖父母等の親族」「友人や知人」が同じくらいになっているが、それぞれ複数回答さ

れた方がどういう組み合わせになっているのかは分からないのか。例えば「保健所・保健センター」と答えられた方は「これしかない」なのか、「親や祖父母もいるけれど」なのか、そこが分かれば教えて欲しい。また、自分のところがどのようなチャンネルになり得るのかも示していただけたら。

事務局 組み合わせが膨大になるので、一度検討をさせていただく。

委員 項目が多く、その後どこにフォーカスを当てて、どのような方向にもっていくのが気になる。もうすこしまとめて分かりやすくできないのか。これで何を一番知りたいのかを教えてください。

事務局 子ども・子育て支援制度で教育・保育、保育園、幼稚園、認定こども園の保護者のニーズがどのようになるのか、それを踏まえて市がどういった定員を確保していくのかという数字を「量の見込み」というかたちで弾き出していく作業になる。その他、子ども・子育て支援事業（身近なところであれば子育て総合センター等の事業、一時預かり、病児病後児保育、ファミリー・サポート・センターなど）のニーズがどの程度あるのかというところも、このアンケートから導き出していく。それに対して市としてどの程度サービス量を確保していくのか。そういった量の見込みと確保方策について検討する基礎資料ということになる。これは単純集計の結果であり、これからその量の見込みと確保方策を検討する作業を続け、次回の会議以降、協議をさせていただけたらと考えている。

アー（イ）構成・内容について、（ウ）教育・保育提供区域の設定について

委員 計画の構成案について、今回力を入れてつくろうと考えているところはあるか。

事務局 「幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」というものを同時に進行しているので、そことの整合性もとりながらになると考えている。

委員 育休や産休などの問題も入ってくるかと思う。これは幼稚園や保育所だけでどうにかなるものではないので、市としてそういうところも必要になるのかなと思う。

事務局 今の待機児童のほとんどが旧豊岡地域で発生しているため、そこでどれだけの定員が確保できるのかというところが一番のポイントとなると考えられる。また、定員を増やす、保育園、認定こども園を増やすとなると、保育士などの人材確保が一番大きな課題になってくると思われる。地域子ども・子育て支援事業も、一時保育等ではなかなか申し込みを受け入れてもらえないというところで、保育園の受け入れ以外にも影響が出ている結果が見えている。そのあたりについて模索、協議をしていかないといけないと考えている。

第1期の計画策定時に比べると人口減少が激しくなっている。お子さんを産む適齢期（部会では25歳から39歳としている）の女性の人口の推移をみると、今後もかなり減ってくると予想される。一方で保育ニーズは増えている。また、豊岡地域では保育のサービス量が足りていないが、それ以外の地域は人口が減少しているので、そこでの保育サービスのあり方も課題である。

	<p>国のほうからは貧困対策や児童虐待のあたりについてより具体的に、力をいれるよう方向性が示されている。また、豊岡市のこれからのまちづくりとの関係によるが、ジェンダーギャップについても議論をしていかなければならないと考えている。</p> <p>イ 小規模保育事業の認可について</p> <p>委員 管理者は未定ということであるが、その中での見込みはどうかということと、必要な保育士の確保の見込みはあるのか教えて欲しい。</p> <p>事務局 保育士はすでに確保している。管理者は現在選考をしており、開園までには管理者を置くという事で報告を受けているので、事務局としては認可をするにあたって問題はないと考えている。</p> <p>委員 現在、ほかにそういった事業を始めたいというところはないのか。</p> <p>事務局 保育所、認可、認可外を含めて数件、どういった関連法令に基づいて、またどういった基準なのかということについて問い合わせがあるが、具体的な動きは全く把握していない。</p> <p>委員 小規模保育の保育園は何件か増えているが、大きな保育園は増えていない。2歳児までということであるが、ここに入れた後の保証はどうなっているのか。「保育園には入れたいが、小規模保育の所には入れたくない」という意見をよく聞くが、どうなっているのか。</p> <p>事務局 小規模保育園を開園するにあたっては、3歳児以降の連携園を必ずとっていただくことを募集の条件にしている。ただ、3歳になった時に預ける所がないという問題は全国でも発生している。今後無償化ということも始まるので、そういったところも踏まえたうえで、どういった保育の提供をしていくのか考えなければならないと思う。</p> <p>0歳から2歳の待機児童が最も多く、小規模保育園ができると助かるが、増やせば増やすほど3歳児の受け入れが難しくなってくるので、トータル的にどうするのかというところの課題については、議論をしていかなければならないと考えている。</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>ア 第1回豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方検討部会の協議内容について</p> <p>イ 幼児教育無償化の制度の具体化に向けた方針の概要について</p> <p>ウ 平成31年度入所申し込み状況（H30.11.30現在）について</p> <p>(ア) 幼稚園・認定こども園（1号認定）</p> <p>(イ) 保育所・認定こども園（2・3号認定）</p> <p>(ウ) 放課後児童クラブ</p> <p>※特に質問等なし。</p>
4 その他	次回開催日（H31.3.27）の連絡（事務局）
5 閉会	副会長あいさつ